

シト仰出サレタリ。○中渡御ノ間ハ、諸卿ヲ初トシテ、末マデノコラズ平折敷也。還御ノ跡ノ饗應略ハ、大臣ハ大臣、公卿ハ公卿、殿上人ハ殿上人ト、ソレハニ膳部ヲカヘテ、三寶モアレバ、足ウチモアリ、勿論ヒラヲシキモアリ、ソレ故ニ二段ニナリテ、別シテヤカマシキコト也ト仰ラル。

○按ズルニ、神事ニ用キル四方三方ノ事ハ、神祇部祭具篇ニ在リ。

〔調度口傳〕一薄盤之事

當時薄盤と云は、一ツの名目になれども、實に前條之四方より平折敷まで薄盤也。然るを當時柳營を初諸侯方にて、薄盤と稱し、年頭などに式三獻雜煮三こん、五々三などに用ゆ、白木又素うるしも有、大サは前の三方に同じ、又家々に依いさゝか替りあり、薄き木を以て作るによりて、薄盤と稱するなり。

〔倭名類聚抄十六木器〕櫃 蔣飭切韻云、櫃

音興貴同、韓櫃明櫃、折櫃小櫃等之名、俗有長櫃似厨向上開闢器也。

〔箋注倭名類聚抄四木器〕折櫃屈折一木爲之、今盛果物有名折之器、即是名之遺也。

〔類聚名物考調度七〕折櫃 をりひつ

をりびつを口にとのふるには、ヅウの如くツを濁りていふなり、さてかたちは即今世に菓子折といふものにて、足付のふち高の事なり、大小は物によりて殊なり、折といふ板のさし物の釘打にはあらで、曲物故に木を折まぐる故の名なり、この折櫃には草木などかりに入る事もあり、〔安齋隨筆前編十四〕一折櫃 古書に見えたり、ヲリウヅと云也、檜の薄板を折り曲げて筥に作る也、是は餅類肴などを盛りフタをして、四隅に作り花などを立て、飾る也、俗に折と云も同物也、然るに高橋家の傳也とて、形を繪圖にして寸尺を書たるあり、田舎人の所爲にて、餘りにカタクナ・ル事也、如此の雜物に何ノ法式寸尺ノ定あるべきや、形は四角にも六角にも心任せにすべし、フタもあり、臺もあり、筥の身に合せて作るべし、筥に直に足を打付たるは略也、此折ウヅ一つ